

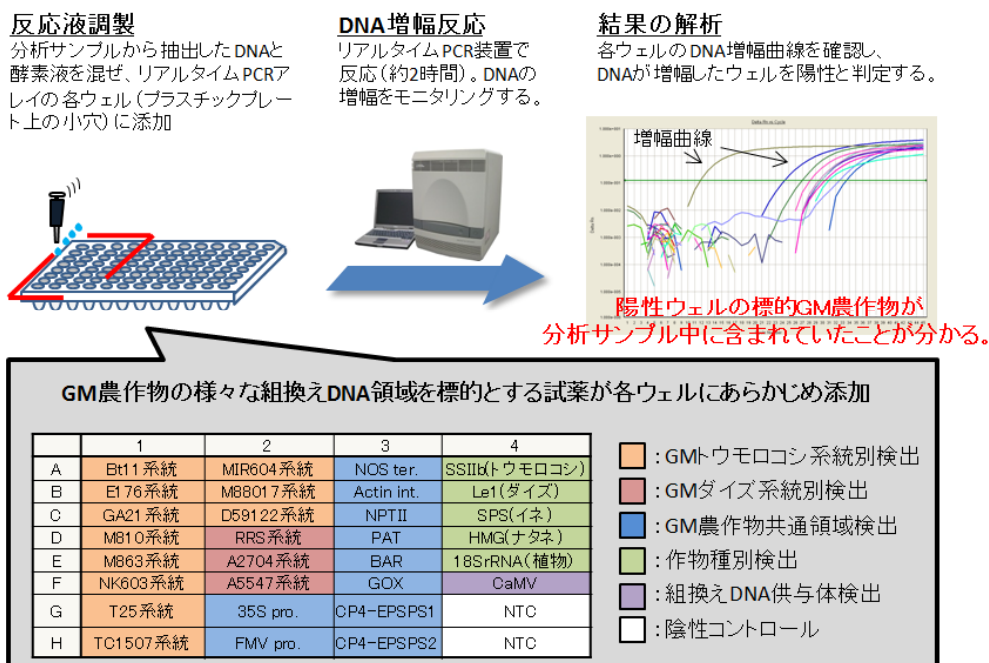
遺伝子組換え農作物網羅的検知システム リアルタイムPCRアレイの開発

技術の特徴

- ・遺伝子組換え(GM)農作物の網羅的検出を目的としてリアルタイムPCRアレイを開発した。
- ・カルタヘナ法に基づいて国内での栽培または一般的な流通が承認されたGM農作物78系統(平成21年7月8日時点)の内、77系統が現在の分析法で検出可能と予想される。
- ・本システムは個別の反応を適宜追加することができる。本システムを利用すれば、年々増加するGM系統に対して継続的に分析法の供給が可能である。

研究の内容

- ・下記の分析法を開発し、分析法としての性能を評価した。簡便な操作で信頼性の高い結果が得られることが確認された。



今後の展開

- ・新たに承認されたGM農作物に対して検査可能な体制を維持できるよう分析法を拡充する。
- ・広く一般に分析法が利用できるよう分析法の標準化を図る。

参 考

- ・J. Mano, N. Shigemitsu, S. Futo, H. Akiyama, R. Teshima, A. Hino, S. Furui, K. Kitta, Journal of Agricultural and Food Chemistry, 57, 1, 26-37 (2009).
- ・農林水産省プレスリリース<http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/090304_1.htm>
- ・月刊 食料と安全、第7巻第7号(平成21年7月15日)『遺伝子組換え農作物の検知技術の紹介』



農研機構
食品総合研究所



代表研究者: 真野潤一

所 属: 食品分析研究領域

GMO検知解析ユニット

問合わせ先: 029-838-7369 jmano@affrc.go.jp